

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長	増田 大作
副センター長	花田 浩之

—概要—

当センターは従来の診療ごとの役割とは違う観点から研究マインドをもって、りんくうおよびこの泉南地域の特色を活かした事業を多彩に進めたいと考えている。その3つの柱として、①Wellnessウェルネス、②Careケア、③Activityアクティビティを規定し、そのそれぞれについて活動する。

① 「生涯リスクを知り健康を維持するウェルネス」

健康でかつ安心な状態であるウェルネスを続けることは健康寿命の延伸し充実した人生につながる。健康診断の受診は現在の健康の有無は評価できるが将来予測は難しい。これが可能になるとよりウェルネスを向上させられるはずである。健康管理センターにおける健康診断結果の生涯リスク予測を可能とし、受診者の増加・受診率の向上・未病状態の発見や改善につながる一般外来への連携を進め、現在この地域の方々さらにはこの国のウェルネスをさらに深めたいと考えている。

② 「多職種かつ施設間で連携して疾患と闘うケア」

本地域の地域連携において、スムーズな情報提供がなされていないとは言えない状況であり、また当院の中でも医師だけではなく事務職やメディカルスタッフ(看護師・栄養士・臨床検査技師・保健師・放射線技師・介護施設者など)の連携は十分ではなく工夫が必要である。これらの「連携」をすすめるため、負担を増やさずにスムーズにする手法について検討を行い、地域における医療の効率化を考える。

③ 「地域の活性化や医療者のアクティビティ」

医療の業界のみならず長時間労働や負担の多い仕事が本来の仕事妨げ、医療者が活躍できる状態から離れる事態に陥りやすくなっており、業務改善が強く求められる。また、地域の人口減や営業力の低下など過疎化が進行している。医療者を中心に地域が活性化すればもっとアクティビティ=活力は向上すると予想される。「ウェルネス・ケア」を中心とした地域健康管理や健康事業を増進していくため様々な提言や介入を進めていきたいと考えている。

「ウェルネス」「ケア」「アクティビティ」をキーワードに、得られた結果をアウトプットし、「りんくうウェルネスケア」をブランディングしこの地域の「特色」として我が国のモデルとなるよう進めたいと考えている。

—実績—

以下、①②③それぞれについての実績を列記する。

① 「生涯リスクを知り健康を維持するウェルネス」

当院健康管理センターにおける新規健診システムの導入を果たし、かつての人間ドックと検診少数の対応から検診受診が大幅に増加し受診患者数の増加に貢献した(診療部門:健康管理センターの項目参照)。これと並行して泉佐野市や岬町など多くの地域での健康フェスタや地域の健康集会、市民公開講座を開催することができた。さらに、家族性高コレステロール血症(FH)についての地域連携として、各自治体の保健行政や各保健所の担当官とのネットワークを構築し、定期的な会合を開きながらそれぞれの自治体での国民健康保険に基づく健康診断における高LDLコレステロール患者の紹介と、その結果としてのFH患者の診断および治療開始、地域プライマリケアへの連携が確立している。また、睡眠時無呼吸スクリーニングにより循環器内科における睡眠時無呼吸専門外来と連携し、実際に多くの症例が無呼吸症候群と診断されCPAP治療を受けるように至った。この無呼吸外来の定期通院患者数の確保につながり、安定した業務の継続に資する結果となっている。

また、昨年同様前職から継続して実施している脂質異常を中心とした様々な臨床研究を継続して実施し、その成果を国際的な査読のある雑誌に投稿し受理されている。First Authorとしての論文も年2報、co-authorとしての論文も多く採択されている。また同様の内容を国内の商業誌にも掲載している。さらに学会でのこの地域の取り組みの紹介や研究内容の発表、医師向けの講演会も多く開催しており、当センターの対外的な評価を上げる努力を継続している。

② 「多職種かつ施設間で連携して疾患と闘うケア」

当院においても長時間労働が問題となり、特に医師における際限ない労働が大きな問題となっている。これに対して従来から医師事務秘書(DS)の活用が開始されているが、物理的に問題が解決しているわけではなく、また今度はDSに対する医師の野放図な業務依頼が公私ともに進められた結果、結局、DSの長時間労働につながったりDSごとの業務量の格差に繋がったりしていた。今年度からDSの業務調整を行う委員会を立ち上げ、また業務調査による受給関係の見直しを行い全体の状況を鑑みた上で配置を行うよう委員会で討議した。DS側としてもリーダー職の強化を進め、DSが独力で問題を解決できるようミーティングを定期的に

開催しましたその場で問題解決に至るよう誘導した。また、地域連携に関しては従来から地域連携部門が存在しているが、特に専門である動脈硬化関連に関して泉佐野保健所、泉佐野泉南医師会との連携のもとかかりつけ医からの紹介および逆紹介に関してディスカッションを進めた。さらに、地域連携で中心的に活躍する開業医との勉強会や地域住民への市民公開講座を開催して地域の意識向上に貢献した。

### ③ 「地域の活性化や医療者のアクティビティ」

泉佐野保健所の管轄する周辺自治体と協調し、若いうちから高率に循環器疾患をきたすFHに関してスクリーニングを開始した。具体的にはこれら保健所及びその保健師と相談の上、まずは特定健康診断における脂質異常(具体的にはLDLコレステロール200mg/dl以上)の結果を有するものを当院循環器科高脂血症専門外来に紹介いただき適切な診断及び治療を開始し地域連携に逆紹介するルートを継続している。本地域には高LDLコレステロール患者が多く、また、若年での心血管疾患の発症が多く、今後有効な介入となると期待される。今年度も泉佐野保健所におけるプロジェクトとしてFHが採択され地域連携を進め、他の自治体からも検診結果での紹介が開始されるなど当院および地域がこの疾患に関して密な連携が取れるようになっている。りんくう地域における主要産業は関西空港に代表される航空業や運輸業である。健康診断においては指定航空身体検査が継続されているが、前者はこの地域でも実施施設として有名となり航空会社との契約および受験希望者に対する実施で症例数を増やしている。また睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査もまた一般社員の定期検診の受注にもつながり、ロジスティックス業務の多い関西空港エリアにおける健診の増加につながると期待される。

### 2019年度 センター業績数

業績内容	件数
国際誌英文原著・総説(査読あり)	7件
国際誌英文原著・総説(査読なし)	0件
国際学会発表	1件
国内学会発表・座長	19件(+2件)
和文原著、総説、著書	7件
研究会・講演会	16件
学術講演(医師会講演会等)	19件
院内講演会	3件

### —今年度の成果と反省点—

健康管理センターでの業績に関しては、システム変更に伴い十分な受診者の受け皿となり、受診者数の増加に繋がっている。今後、さらなるリクルートにより受診者数の増加を進めつつ目標とするシステムの改良を進め、さらなる受診者数の増加につなげていきたい。FHについては近隣クリニックからの紹介が確実に増えており、当院が脂質異常・高脂血症における本エリアの中心的存在になったといえる。今後もさらに本地域さらには大阪府下へとこの運動を広げること、当院だけではなくこの南大阪地域から管理されていないFHを一掃したいと考えている。他職種連携に関してはさらにDS業務の連携、他業態の連携をすすめることにより円滑な業務と労働時間の短縮につとめていきたいと考えている。地域連携に関してはまだ始まったばかりであるが、とくに近隣クリニックからの需要に関して十分対応できるようにさらに工夫していきたい。

### —来年度への抱負—

開設2年目となり、当院独自での研究発表や地域との連携も多く対応した。しかしまだまだ当院独自の研究内容のアウトプットに関してはまだ十分ではないと言える。健診システム、DS業務、予防医療の浸透に加え、当院独自の臨床研究や治験の推進も合わせて努力していきたいと思う。